U-note

授業構想シート
授業構想チェックシート
Rシート

実施時期	令和 4年 4月 ～ 5月	学部	小学部		
教科	国語	グループ	B	指導領域	聞くこと・話すこと

実態 **実態について**
☑個別の教育支援計画を確認（その子どもに必要なこと？）　☑個別の指導計画で領域を確認
☑知識を段階化した一覧を実態表として使用し、実態を把握
☑「できない」ことは問題でなく、つまずきの原因が重要
（1）この題材で達成が可能？【可能性】　（2）現在の生活で必要は？【必要性】
（3）将来の豊かな生活につながる価値は？【価値性】

対象児：F
【知識及び技能】
・ひらがなの単語を逐次読みし、単語の意味がわかる。
・「いや」「だめ」などの言葉は場面に応じて言うことができる。
・朝の会などで、「〇〇さん、お願いします」などの定型文を使う場面では要求や依頼を言葉で伝えることができる。
【思考力・判断力・表現力等】
・「早く着替えて遊ぼう」という教師の言葉を聞いて着替えを始めることができる。
・担任教師が歯磨きをしている動画を指さしながら「これは誰？」と尋ねると、担任教師の方を指さす。
・自立活動に取り組んでいる動画を指さしながら「何してる」と尋ねると「チャレンジ（自立活動）」と答える。
・座る、歩く、立つなどのイラストを提示して「歩いているのはどれ？」と尋ねると、2択の場合は正しい方を指さす。
【学びに向かう力・人間性等】
・体験的な活動や遊びを中心にした活動に意欲的に取り組む。
・問題量や内容を見て、課題に自ら取り組む。
・つまずくことが想定される課題でも、課題の後に楽しめる活動を設定しておくと課題に取り組もうとする。

学習指導要領の扱う段階の目標と内容
・小学部2段階　ア（ウ）
身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること
・小学部2段階　Aウ
体験したことなどについて、伝えたいことを考えること

【どうなってほしいかを三つの柱で整理】

【何を学ぶ？（知識）】 ・名詞と動詞の関係とその働き。	【〇と判断できる発言や姿】 ・「行く」「食べる」「買う」の動詞を用いて、名詞＋動詞の二語文で相手に伝える（助詞が抜けてもよい、活用が不十分でもよい）。	【大まかにどう段階化する？（詳細は題材計画で）】 ①「何に乗る」「どこで遊ぶ」「何を食べる」などの問いに対して名詞を答える。 ②「〇〇に」などの名詞を含む言葉かけ、「のる」などの動詞をひらがなカードを見ながら言う。 ③「バスにのる」など、二語文で話す。
【どう学ぶ？（活動）】 ・イラストや写真から、乗り物や目的地を自分で選び、その内容に沿った名詞や動詞を話す。	【〇と判断できる発言や姿】 ・イラストや写真カード、先生や友だちの話を手がかりに、したい活動や食べたい物を二語文で伝える。	【大まかにどう段階化する？（詳細は題材計画で）】 ①乗りたい物を伝える。 ②行きたい場所や食べたい物を伝える。 ④イラストにない乗り物や遊ぶ場所を教師にリクエストして、その内容を伝える。
【望む姿勢や姿は？】 ・名詞＋動詞の二語文で行きたい場所や食べたい物などを自ら伝える姿の定着。	【どう引き出す？】 ・児童の興味関心に応じた物や場所などを扱う。 ・思いを伝えやすくするために、場面を捉えて文字カードなどを提示する。 ・児童のリクエストに沿ってイラストカードにない物を追加していく。	

【教材は？】　**【教材名：** 『おでかけごっこ』 **】**

【仕組み】
・旅をする設定
・自分の行きたい場所やしたい活動などを言葉で伝えることができたら、「お出かけボード」に行きたい場所やしたい活動のイラストカードを貼ることができる。
・黒板を地図に見立て、地図上でお出かけボードの内容の疑似体験ができる。
・カードにない物を教師にリクエストして自分のしたいことを伝えるための言葉を増やしていく。

お出かけボード

【全　10　時間をどう使う？（題材計画）】

知・技	【一次】 1時間目 学習に興味や関心をもったり、仕組みを理解したりする	【二次】 2～4時間目　イラスト・写真カードを見て、単語で伝える 5～8時間目　ひらがなカードを見ながら、二語文で伝える	【三次】
思・判・表		2～4時間目　乗りたい乗り物や行きたい場所を思い浮かべ、「乗り物」「遊ぶ場所」のイラスト・写真カードから選んで単語で伝える 5～8時間目　食べたい物や買いたい物を思い浮かべ、「食べる物」「買う物」のイラスト・写真カードの中から選んで、ひらがなカードを見ながら名詞＋動詞の二語文で伝える	9～10時間目 イラスト・写真カードにない物も含めて、自分の乗りたい乗り物や行きたい場所などを思い浮かべて伝える
主体的な姿	☑教材を注視したり、活動に参加するために挙手したりする	☑自ら手を挙げて自分の行きたい場所や食べたい物を伝える	☑名詞＋動詞の二語文で行きたい場所や食べたい物などを繰り返し伝える

【めあて達成のための工夫は？（場面設定・教具・働きかけなど）】

【工夫点】		【意図（ポイント）】
①教師が伝え方の手本を示し、「ひらがなカード」を提示する ②イラスト・写真カードは普段の児童の言動から興味関心があると思われる物を取り上げる	なに に のる ？ に のる。 ひらがなカード	①動詞の伝え方を聴覚的、視覚的に捉えることができるように ②思いを伝える必要性が生じるようにするため

【1時間をどう展開する？】

学習活動	意図と働きかけ（**主発問・みとめ・タイミングなど**）	【板書・配置・教具など】
絵本の読み聞かせを聞く	・言葉や文字に親しめるように、読み聞かせの途中で教師が内容について質問し、答える場面を設定する。	 イラスト・写真カード
自分が伝えたいことを言葉で伝える	・自分で伝えたいことを考えられるように、教師が乗りたい物や遊びたい場所について尋ねる。 ・考えを具体化、言語化できるようにイラスト・写真カードを提示する。	
個別プリント	・グループの児童それぞれの実態に違いがあるため、個に応じた課題プリントで個別に学習する時間を設定する。	【改善】 ・はじめは動画を見ながら「何をしているか」を話す活動を取り入れていたが、聞かれたら答えるのみで、自ら伝えたいことを考える活動に結びつかなかったた。そこで、自分の希望や想像を膨らませるような、疑似体験を取り入れた活動に変更した。
振り返り	・当日に取り組んだ課題の中でできたことを認め、次回への動機づけにしたり、課題がどこなのか本人が理解できるように、つまづいたところを確認して次回のめあてを伝えたりする。	

【評価】

開始時の姿（実態・課題）	指導・支援	結果
乗りたい乗り物や遊びたい場所の名前を単語で伝えていた（「バス」「公園」など）	・単語を言った後に教師が「（～に）のる」など、二語文で話す手本を示す。 ・単語を言った後に教師が「～に？」などと名詞の後に助詞の部分をつけ加えて待ち、続けて動詞の部分を言うか見守る。 ・動詞を言う場面で止まってしまう場合は「ひらがなカード」を提示し、動詞をどのように伝えればよいかを視覚的に支援する。	・「バスに乗る」「公園に行く」など、名詞＋動詞の二語文で話すようになった。

① 4／19

【うまくいったこと】
・動画は注視できる。

【うまくいかなかったこと】
・動画は注視できたが10分以上になると注意の持続が難しい。
・「誰」「何をした」に答えるだけでは見た物をそのまま答えるだけで伝えたいことを話す姿は見られなかった。

【気づいたこと】
・動画を見て質問に答えるのではなく、自分たちで「何をする」を考えた方が主体的な学びになると考えた。

主・対で深い学びの実現に向けた改善
・伝えたいことを考えたり、教師と児童が名詞や動詞を使って言葉でのやりとりができる絵本の読み聞かせを取り入れる。

② 4／21

【うまくいったこと】
・絵本に興味を示し、話の終わりまで挿絵に注目して聞いていた。

【うまくいかなかったこと】
・動画について「誰が」「何をしている」について尋ねても「誰？」の問いに場所を、「何をしてる？」の問いに人の名前を答えた。

【気づいたこと】
・自分のことに関する動画はよく見ていたことから、自分のことについて好きなことやしたいことを尋ねる内容にした方がよい。

主・対で深い学びの実現に向けた改善
・自分の体験したことがある活動を言葉で伝えるようにする。

③ 4／ 26

【うまくいったこと】
・『お出かけごっこ』にすると自分たちの行きたい場所を伝えるようになった。

【うまくいかなかったこと】
・「何に乗る」「どこへいく」だけでは時間が余った。

【気づいたこと】
・ごっこ遊びなど、仮想でも楽しめる児童の実態がわかった。

主・対で深い学びの実現に向けた改善
・おでかけごっこを膨らましていき、自分が伝えたいことを言葉で話すことができるようにする。

④ 4／28

【うまくいったこと】
・お出かけする時に乗りたい乗り物を尋ねると自分から積極的に発言しようとする姿が見られた。

【うまくいかなかったこと】
・活動時間を長くとると順番を待つ時間が長くなり、離席することが増えた。
・伝えたいことを考えられているが、単語で教師に伝えるのみであった。

【気づいたこと】
・設問の時間やそれぞれの活動時間の配分を調整しないと、集中が切れる。
・おでかけごっこは伝えたいことを考える教材になっている。

主・対で深い学びの実現に向けた改善
・単語から二語文で話すように教師が手本を示す。
・思い浮かべたことを、二語文で教師に伝えられるよう文字にして書き留めておく。

⑤ 5／ 6

【うまくいったこと】
・「何に乗る？」「どこへ行く？」「何を食べる？」についての問いにそれぞれ乗り物、場所、食べ物を答えることができた。

【うまくいかなかったこと】
・二語文で話すことを知識・技能のねらいとして設定したが、「行く」や「食べる」などの動詞をつけて話すことはなかった。

【気づいたこと】
・知識・技能を習得するための教具が必要

主・対で深い学びの実現に向けた改善
・「名詞」＋「動詞」で話す際の「動詞」を引き出すため、動詞の部分を文字カードにして提示する。

⑥ 5／ 10

【うまくいったこと】
・「（バス） に のる」など話してほしい名詞の部分をひらがなカードにして提示し、教師が名詞＋動詞で話す手本を示すと二語文で話すようになった。

【うまくいかなかったこと】
・ひらがなカードを読むだけになることがあった。

【気づいたこと】
・文字を提示することは有効。

主・対で深い学びの実現に向けた改善
・見本を示す前に少し待ち、動詞の部分を言えるか様子を見守る。

⑦ 5 ／12

【うまくいったこと】
・「いく」などの動詞のひらがなカードをすぐに示さず待つようにすると、動詞の部分を言える場面があった。

【うまくいかなかったこと】
・

【気づいたこと】
・教師が待つことで本人の考える時間ができ、ねらいに迫ることができた。

主・対で深い学びの実現に向けた改善
・リクエストのあったイラストカードを追加して興味・関心を高める。

⑧ 5／17

【うまくいったこと】
・待つことでねらいの二語文で話すことが増えている。
・ひらがなカードを用いずに、二語文で話すことができた。

【うまくいかなかったこと】
・課題に要する時間が短くなった分、時間が余るようになった。

【気づいたこと】

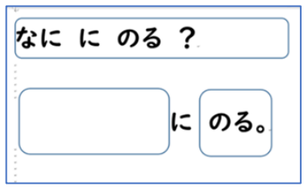
実践のポイント

【主体的・対話的に学習に取り組むための教材の工夫】
〇一次では自分が活動している場面の動画を提示し、その動画の内容について答えるように考えていたが、過去の活動を振り返ることや、友だちのしていることについて答える学習では興味・関心が薄く、問いに答えるだけの受け身の授業になった。
そこで、自分がしたいことや行きたい場所について考え、疑似体験できるような教材であれば、自ら考え、思いを伝えようとする姿を引き出せると考え、教材を『おでかけごっこ』にした。また、はじめは行きたい場所などを想起しやすいように、児童の身近な場所や興味のある乗り物などをイラストカードにして、その中から選ぶようにした。

「どこにいく」
のイラストカード

「なににのる」
のイラストカード

【二語文で話すための教具の工夫】
〇知識・技能の指導内容である「名詞＋動詞の二語文で話す」については、教師の手本だけでは難しいことがわかったため、「ひらがなカード」を用意し、動詞の部分をつけ加えて話す際の思考を補助するようにした。学習が進むにつれ、ひらがなカードを読めばよいと考える可能性が想定されたため、すぐにひらがなカードを提示せずに待つようにすると自分から二語文で話すことができるようになった。



ひらがなカード

【伝えたいことを言葉で伝えるための工夫】
〇振り返りの時間に、「次の授業の時に入れてほしいイラストカード」を尋ねるようにした。するといつも行く好きなお店の名前や、実際には乗ることが難しい乗り物（フェラーリ）など、教師が用意した選択肢ではなく、自分で思い浮かべたことを言葉で伝えることが増えた。

働きかけについて（HOW TO）
☑自ら考え、判断して行動する手助けをするためのもの
☑活動「開始時」「途中」「つまずき」「終了時」を想定
☑誘い、示範例示、助言、説明、問いかけ、盛り上げ、賞賛、励まし、認め、意味づけなどを行う
☑子どもに合わせた伝わりやすいことばや提示
☑抑揚や身振り、表情、子どもの好きなものなど工夫
☑つまずきに対して答えでなく段階的な働きかけを
☑課題遂行につながる効果的なことばかけ
☑何がよかったかわかるよう即時評価
☑よさや価値を伝えられる認め
☑働きかけを段階的に減らしていく工夫

題材目標について
☑それぞれの子どもの目標を個別化する
☑授業の評価・改善ができるよう、題材の最後の姿（到達像）の具体化する
☑身につけたいことを焦点化する
☑前単元や題材、または、日常生活で意欲的に取り組めた工夫を活用
例：教材の仕組み、学習環境の工夫など

教材について
☑子どもに身につけてほしい知識及び技能、生活に生かせるような思考力・判断力・表現力をその教材で習得・育成できる？
☑必要性を感じ、課題をもてる？
☑主体的・対話的な活動は取り入れられる？
☑絵、写真、ビデオなど具体物を使用するなどの工夫ができる？
☑子どもが自分でルールを決めたり、役割を設定したりできる？
☑子どもにとっての強化子はある？

題材計画について
☑つまずきの原因分析から、できること・わかることが段階化されている？
☑子どもの学び取りの傾向から課題の引き受けや実施方法が検討・工夫されている？
☑全体の計画と個別の計画がわかるようになっている？
【一次】
☑仕組みを理解したり、楽しさを感じたりできる？
☑活動の意味やよさが十分理解できる？
【二次】
☑二次は確実な知識の習得
☑子どもに到達してほしい頭の使い方がぶれていない？
☑負荷がかかりすぎていない？
☑支援が減る、問題の難易度が高まるなどしている？
☑友だちと一緒に学ぶ場が計画されている？
☑自分で考えた仕方や解決方法を生かせる仕組み？
【三次】
☑できるようになったことを生かす場は設定されている？

学習環境について
☑活動の流れや量、しやすさを考えた道具材料の配置？
☑不要な刺激は排除している？
☑仕方や手順がわかりやすく伝えられる？
☑成果が見てわかる？
☑自分で仕方や手順を確かめられる？
☑教具は、思考（わかる）を補助できる？
☑教具は一人で使えるようになる？
☑期待感（してみたい！）をもてる？

学習活動について
☑導入は課題理解、興味関心
☑展開は知識習得のため、教具の理解や操作が適切？
☑発展は定着、応用、工夫できる？
☑終末は自己評価と次時への意欲
☑目的や意味、よさがわかる？
☑何をどのくらいどのようにするかわかる？
☑課題は段階的に高まっている？
☑間違いに気づいてやり直せる仕組み？
☑学習の結果と目的がつながって達成感がもてる？

評価について
☑めあてと指導はつながってる？
☑文章・文法はわかりやすい？伝わる？
☑不適切な表現はない？（難しい、できないなど）